



みみよい

61

発行日/2022年6月25日

編集・発行/堺市立健康福祉プラザ

視覚・聴覚障害者センター

聴覚障害者情報提供施設

〒590-0808 堺区旭ヶ丘中町4-3-1

Tel:072-275-5024 Fax:072-243-2222

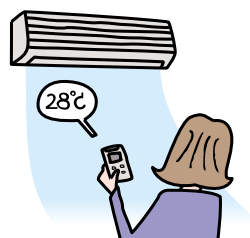
Mail:mimi@sakai-kfp.info

ごあいさつ

折出 秀人

ジメジメした季節ではありますが、いかがお過ごしでしょうか？ 梅雨が近づくにつれて気温も上がり、エアコンを使う日も多くなってきました。皆さんはもうエアコンを使っていますか？ 私はとても暑がりです、6月に入ってからはほぼ毎日使っています…。

エアコンは梅雨明けに使い始める方が多く、同じ時期に修理などの依頼も集中してしまうため、暑い夏がやってくる前に「エアコンの試運転」が推奨されています。試運転の方法は、まずエアコンの設定温度を最低温度に設定し、冷たい風が出るかを確認。そのあと、さらに30分ぐらい運転をして、異音や異臭、水漏れなどの異常がないかを確認するといいたいです。早めの試運転で事前に異常がないかを確認し、室内での熱中症を防ぎ、今年も暑い夏を乗り越えましょう。



開催事業報告

《聞こえのセミナー》



5月28日(土)の聞こえのセミナーは、「ヒアリングフレイル」をテーマに開催しました。「フレイル」とは「要介護になる前の『虚弱』な状態」を指し、フレイル予防の大切さが取り上げられています。堺市も「あるく」(身体活動)、「しゃべる」(社会参加)、「たべる」(食生活・口腔機能)をうまく循環させ、フレイルを予防しようするための「介護予防『あ・し・た』プロジェクト」に取り組んでいます。今回のセミナーには「スピーカーで聴覚障害者支援をする」という新しい分野で研究・開発・啓発活動をしておられる中石 真一路さん(NPO 法人日本ユニバーサル・サウンドデザイン協会理事長・聴脳科学総合研究所所長)をお招きして、聞こえと認知症の関連について講演していただきました。



日本の難聴者数は約1,430万人と言われており、全人口の約12%にあたります。聴力が低下すると、おしゃべりする場から遠ざかってしまったり、情報を得る意欲がなくなったりしてしまい、これが「フレイル」を引き起こします。一方、難聴者の方々の91%を占める軽度・中等度の方で補聴器を所有している人は13%程度ととても少なく、背景には補聴器を利用することへの恥ずかしさ、金銭的な負担の大きさのほか、「音は聞こえるけれど聞き取れない」という難聴の方々の実感があります。

中石さんは、「伝える側がきちんと届ける」と発想を転換。対話支援のスピーカー「コミュニケーション」を開発されました。講演会もコミュニケーションを数台使用して声を届けていただき、音環境の違いを体感していただきました。また、第2部では「みんなの聴脳力チェック」というアプリを使い、今の聞こえの状態を確認していただきました。聞こえについての悩み、つらい体験をお話しくださる方もおられ、情報提供の場、気持ちの分かち合いができる場の大切さを感じました。



第2部で使った「みんなの聴脳力チェック」は、言語の認識状態を可視化し、総合的に「聴きとる脳力」チェックが可能な音声知覚能力チェックアプリです。スマートフォンやタブレットをお持ちの方は、ご自宅でも利用できますのでご利用ください。お持ちでない方は、センターでもお試しできますので、ご連絡くださいね。

※事前予約をお願いします。



《もじサロン ～ わいわいおしゃべり会》



6月4日(土)に、「難聴者としての体験談」と「おしゃべり会」をセットで行い、4名のご参加がありました。当日は、兵庫県西宮市にあるLIC(リック)の代表者の山岸 かな子さんにお越しいただきました。LICは、聴覚障害者に特化した自立生活センターで、全国的にも数少ない施設です。山岸さんご自身も難聴者で、LICでも長らく聴覚障害者の支援をされています。

山岸さんは中途失聴者で、少しずつ聴力が落ちてきています。「遺伝性難聴」で、ご家族にも難聴の方が何人かおられるとのことでした。難聴者の立場で苦悩した場面として、会議と飲み会の例を挙げておられました。会議はやはり永遠のテーマになりやすいですが、周りに働きかけた結果、聞こえをカバーするための機械を活用したり、なかまが通訳をして助けてくれたり、会議に参加できる喜びを感じることができたとお話がありました。飲み会では、場が盛り上がると難聴者の存在を忘れられてしまい、山岸さんも内容がつかめずに参加できなくなり、途中で帰ったらあとで「弱い」と言われてしまった経験もお持ちでした。また、沖縄県に行かれたときに、聞こえない学生がパソコンで通訳をしてもらっているのを見てLICでも取り入れようとされ、LIC独自で居酒屋の場でも通訳が派遣されるようになっていきます。そのサポートの存在に山岸さん自身も助けられているとのことでした。山岸さんが「聞こえる経験と聞こえない経験を持っているのが私の強み」と話されていたことが印象に残りました。

後半の体験談では、はじめは“いやいや”と遠慮されても、マイクを持つと、みなさん自分の障害や思いを淡々と話してくださいました。その後は耳鳴りに悩まれる方がおられ、自分なりの対処方法を紹介される様子もありました。このように同じ立場の方やなかまが集まれる場も定期的に作っていきたいと思います。山岸さん、遠方からありがとうございました。



☆LICで作成されたコミュニケーション障害を知っていただくためのDVDも当日一部視聴し、センターにもDVDを寄贈いただきました。ライブラリーで閲覧いただくのみになりますが、興味がある方はぜひご覧くださいね。西宮市の小学校で配布されているそうです。

《もじサロン ～ 筆談会 ～》

実施日：5月12日(木) 14時～16時

お1人ご参加いただきました。

筆談会はお1人でも開催いたします。事前申込制ですが、ご気軽にお越しください。筆談で楽しくおしゃべりしましょう。

昨日のドラマ、おもしろかった。字幕がついてると楽しめるね。



《みみサロン》



5月21日(土)に「地下鉄安全教室」を行いました。地下鉄「大阪メトロ」の職員さんの中には、手話ができる方がおられます。その手話ができる職員で結成された“チームもぐら”さんは、労働組合の社会貢献活動として、聴覚支援学校や聞こえない人、手話サークルの団体などで「地下鉄安全教室」を実施されています。また、聞こえない人が集まる行事でのボランティア活動、地下鉄職員への啓発活動など幅広く活動されています。しかし、コロナ禍で2年ほど活動を休止されていました。コロナ禍が少しずつ落ち着きつつあるので、今回、センターに来ていただくことが叶いました。会場とオンラインのハイブリッド型で開催し、合計で27名にご参加いただきました。

今回来てくださった“チームもぐら”さんのメンバーは6人おられ、みなさんが交代でクイズや手話劇、地下鉄が民営化された後の変化など、多岐にわたるお話をしてくださいました。手話のできるメンバーには、例えば駅員・車掌・運転士・指令所職員がおられ、“チームもぐら”さんができたきっかけとして、聴覚特別支援学校に通う児童の保護者から「地下鉄を利用するときに子どもが降りる駅だけでも手話ができる人がいれば」という相談で、手話を学ぶようになったという経緯があるそうです。

さて、講話の一部をご紹介します。地下鉄の各駅にはコミュニケーションボードが設置され、聞こえない人だけではなく、外国人や子どもが見ても分かりやすい工夫がありました。また、大阪メトロでは、全国に先駆けて安全のために可動ホーム柵の設置を進めています。2025年度には全線ホーム柵の設置ができる予定とのことです。そして、緊急時に非常ベルを押したときは、マイクに向かって話せなくても、その場に車掌などが来てくれるので、気にせず緊急のときは押して知らせるようにしてくださいと教えてくださいました。ホームに落とし物などしたときに降りてしまうと、高さかなりあり自力で上がることはできません。万が一ホームに降りてしまったときは、ホーム下の穴になっているところに入ることもできると紹介してくださいました。その他、参考になる話も多くあり楽しいひとときでした。チームもぐらさん、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

☆もぐらさんのご協力のもと、講話部分をDVDにし、センターのライブラリーの作品に追加する予定です。また、地下鉄を利用される方の安全を守るために作成された安全ガイドブックもいただきました。安全ガイドブックは数が少なく先着順になりますが、DVDをご覧になった聞こえない・聞こえにくい方にお配りしたいと思います。希望される方はセンターまでにお知らせください。



大阪メトロの「コミュニケーションボード」。全駅長室と全改札窓口、大阪シティバス全車、全営業所に設置されています

大阪メトロの「コミュニケーションボード」。全駅長室と全改札窓口、大阪シティバス全車、全営業所に設置されています



忘れ物、落とし物の問い合わせ用FAX用紙。基本、各駅に置いてあります。駅員さんに尋ねてください。

Osaka Metro お忘れ物センター FAX番号 06-6647-6144

お忘れ物・落とし物・問い合わせシート

地下鉄の車内・駅の中で忘れ物・落とし物をしてしまい、探しています。

【お客さま情報欄】※折り返し連絡するのに使います

氏名	
FAX番号	

【お忘れ物・落とし物情報欄】

いつですか?	
どこで?	
何を?	
色は? 形は?	
その他の詳しい情報を記入してください	

手話奉仕員・通訳者養成講座

入門・通訳者養成講座 開講！

各課程の手話通訳者養成講座は、5月中旬よりスタートしました。今年度の入門課程は夜の講座で、多数のお申し込みをいただきました。現在、日中は仕事、夜は講座と頑張っておられると嬉しい便りが届いています。市民向け手話講座は7月開講です。

要約筆記者養成講座

PC講座で開講しました

6/11にガイダンスを開催し、今年度は10名が受講されます。6/18の開講式のあと、難聴者の体験談を聞きました。積極的に質問も飛び交い、熱心な様子が伝わってきました。

センターの行事



- 7月 8日(金) 13:30~16:30
「補聴器相談」 ※要事前予約
- 7月 14日(木) 14:00~16:00
「もじサロン(筆談会)」 ※要事前申込
- 7月 16日(土) 14:00~16:00
「みみサロン」 ※要事前申込
テーマ：字幕付き映画体験会
- 8月 4日(木) 14:00~16:00
「もじサロン(筆談会)」 ※要事前申込
- 8月 6日(土) 13:00~15:00
「工作教室」
テーマ：ペットボトルで水族館
※要事前申込・対象は：聞こえない小中学生
- 8月 10日(水) 10:00~12:00
「親子手話」
※事前申込・対象は聞こえない未就学児とその家族
- 8月 30日(土) 10:00~12:00
「親子手話」
※事前申込・対象は聞こえない未就学児とその家族

当日は、検温と手指のアルコール消毒にご協力ください

ビデオライブラリーのおすすめ

ちびまる子ちゃん「まる子、ジンクスに期待する」の巻
いいことや悪いことが起きる前触れといわれるジンクス。広くいわれているジンクスもあるが、自分だけの習慣からジンクスを決めている人も多い。まる子は、自分にはジンクスが何もないことから、何かジンクスを見つけ出そうと考えます。

名探偵コナン 北九州ミステリーツアー(小倉編)

小五郎が日本探偵連盟の「ベスト探偵アワード」に選ばれた。その授賞式が開かれる福岡県の小倉にやってきた小五郎・蘭・コナン。観光する蘭と別れ、小五郎とコナンは小五郎の警視庁時代の先輩「桜田門の虎」こと「深町虎三」に会いに行きます。ところが、深町虎三は転倒して頭を打ち、意識不明で入院していました。

頑張っています 手話通訳・要約筆記登録者

実施済

- ・手話通訳者新規実技研修 5/13・20・6/10・24
- ・要約筆記者新規ステップアップ研修(PC) 5/14・21
- ・要約筆記者新規ステップアップ研修(手書) 5/27・6/23
- ・第1回登録者合同研修 6/18
- ・手話通訳者新規実技研修 7/1・15
- ・要約筆記者新規ステップアップ研修(PC) 7/15 (手書) 7/23
- ・手話通訳研修 7/29「現場での困った どうしよう」
- ・要約筆記者研修 7/30「感染症時代の対人援助」
- ・要約筆記者実技研修(手書) 7/30「ノートテイク技術」

事業状況

		手話通訳		要約筆記		ライブラリー	
		個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数
4月	派遣数	198件	11件	13件	2件	6人	23本
	派遣人数	217人	19人	22人	6人	新規登録者：1人	
5月	派遣数	191件	13件	15件	3件	7人	42本
	派遣人数	200人	27人	28人	9人	新規登録者：1人	

